

関西学連ロングセシレ 2012 コース解説

コースプランナー 山下智弘

※想定難易度(難・やや難・普通・やや易・易)はコース全体に対する当該レッグの相対的な難易度をプランと試走を通した結果から主観で選んだものである。[]内の数字は選考クラス(同一コースの併設クラスは含まない)ラップ解析での難易度の値である。

1. MSクラス

プログラムに記載の通り、高レベルのプランや実行を要するようなレッグは設けずにオーソドックスな技術を組み合わせることで堅実に走ることを求めた。全体的に難易度を抑えつつも中級レベルのプランと実行技術は必要であり、トレインの関係上体力や走力も求めるコースに設定した。

△→1 やや難 [173]

スタ1から長くうろたえた人も多いかもしれないがそれも意図した意地悪なレッグである。尾根上の補助コンは分かりにくい植生界が見やすいためこれが分かれば自信を持って進めたであろう。焦って手前にある東の沢に落ちてしまった人もそれなりにいるようだ。またスタートから西進し救護所を通る道回りも見えなくはないが多分遅い。

1→2 普通 [153]

A 藪と C 藪の植生界というわかりやすい特徴があるのでこれが見抜ければアタックは容易である。ただし植生界がアタック方向と反対にある。よく「右にアタックするなら左を見よ」という言葉がある。今回植生界をプランに取り入れられなかった人はこの言葉を肝に銘じよう。

2→3 普通 [51]

ミドルレース程度のやや細かなアタックだが確実に直進すれば地形も手掛かりとなりさほど難しくない。また、ポストが置かれている小凹地のあるテラスは手前の尾根からでも確認できる。道周りを選択した場合アタックが難しかったようだ。上位層は難なくこなしているようだった。

3→4 やや難 [223]

今回のコース中唯一ルートが分かれるであろうレッグである。上位陣はほぼ直進で進んだようだ。想定ルートは南の尾根を登り尾根が東に折れるところから南西の沢をカットし5番道、以降道たどり…であったがプランナーの敗北に終わったようである(笑)また、救護所周りを選択した大箱(京大)がトップと1分差の6位ラップを獲得しており意外だった。いずれにしてもアタック自体は難しくないのでは実行力と体力勝負となる。

4→5 易 [44]

ループに被らないようレッグ線を折り曲げたかっただけのつなぎレッグ。

5→6 易 [57]

つなぎレグその2。ただし手前のピークがおもったより近く現れたという人が多いらしい。

6→7 易 [57]

ループ区間に入るが隣の沢に向かって直進、あるいはその沢を下るだけのお手軽なレグ。WSと共通レグ(逆まわしだが)であり相対的に難易度は低い。

7→8 やや難 [57]

確実な直進を課題とするレグを作りたかったが短かったこともあってか思いのほかミスは少ないようだった。実は最終試走後に現地を見ずにコースに取り入れたポストであり沢かどうかといわれると微妙な地形であった。

8→9 やや易 [36]

このレグも直進を要するレグであるが8ポと違い他の手がかりも多い。ポスト位置は難しくないが尾根を斜めに切ることになるので多少ずれることはありそうだ。

9→10 普通 [121]

本レース一番のロングレグであるがルートで迷うのは脱出のみで救護所付近を過ぎて尾根に乗ってしまえばあとは走るのみである。アタックも手前に鉄塔があるおかげで分かりやすいが逆にポストのある一つ手前の沢に入ってしまった人も多いようだ。一旦斜面を下るとリカバリーに時間がかかるので地形をよく確認するなどしてアタックミスを避けるようにしよう。

10→11 普通 [102]

ほぼ垂直に尾根を切る形になっているレグである。直進すれば問題なかっただろうが比較の見通しの悪いレグだったこともあるのだろう、多少差が付いている。

11→12 難 [179]

山塊の反対側にある小さな尾根にアタックする形であり多少プランに悩まされる。山塊を南からまくようにコンタリング、あるいは同じ場所を直進気味に尾根切りするのが速いと思われるが多少アタックが難しい。自信のない人はエイミングオフという選択肢も考えてみてほしい。今回の場合5番道があるので目標とするポストのある尾根のやや南に出るように尾根を切ればアップも節約できたであろう。トップの福井(阪大)は2位以下に20秒差以上の差をつけ、3つ目のトップラップを獲得しているが全体のトップはMOクラスの石黒氏(紅萌会)であり福井よりさらに10秒以上速い。

12→13 やや難 [137]

直進した場合途中の尾根が地図上より大きく見えたらしくそのために戸惑った人も多いようだ。結果的にコンタリング気味のルートを取った選手が速かったらしい。

13→14 やや難 [173]

単純なコンタ道たどりと侮ることなかれ、ポストはたどってきた道の10mほど上にある。あらかじめ地図を読んできた人とそうでない人とで大きな差が出たであろう。ちなみにプランナーも試走でつぼった。

14→15 普通 [67]

コンタ道をたどり様々な道の分岐が密集した鞍部から植生界をたどるところまではあまり問題ないだろう。右手の D 藪がなくなり開けた部分をショートカットした人の中にはなぜかラスポが見えず気付いたらゴール目前だった、という選手も数人いるらしい。プランはさほど問題があると思えないだけに不思議である。

総括

プランナーや運営者の想定よりも一つ一つのレッグをそつなくこなす選手が多い印象であった。難易度があまり高くなかったとはいえ参加者の多くが一定水準の技術を身につけているようで心強い限りである。逆に一つのミスでセレ通過を逃した例もあり、後半大きく順位が入れ替わった選手も多い。最後まで集中し走りきれた選手が強かったようだ。

トップの福井(54:54)はシード選手にふさわしい圧倒的な走りで 55 分を切ってきた。優勝設定時間(60 分)は比較的甘めの見積もりではあったもののコンディションも悪い中 5 分以上も想定を上回る走りを見せてくれたのは喜ばしい限りである。二位の松下(京大)はミス率が最も低い。過去二回のインカレでは新人クラス入賞をいずれも果たしており選手権クラスでも活躍を期待したい。三位には一回生の五百倉(京大)が入った。経験を積んできた上級生たちをかわしての入賞はさすがである。四位以下津高(阪大)、堀(阪大)、笠原(関大)と阪大グループが続く。笠原は後半に順位を 4 つ上げている。寺田(京大)がセレを免除され岡本(京大)が不出場だったため単純な比較はできないが総じて阪大勢の躍進も実感させられたレースであった。

2. WS クラス

難易度としては一般的な大会の A クラスより簡単であり、ある意味 MS クラス以上にミスが許されないコース設定とした。北の斜面をほとんど用いなかったのでアップ率も低めであり、淡々とレースをこなして少し物足りないなと思ってくれたのならそれはそれでいいことである(笑)

△→1 やや易 [34]

道がやや複雑に発達しており、たどり間違えるとミスにつながるがさほど問題はなかったようだ。実行するかどうかは別として直進気味に進むプランも選択肢にいれられればよりステップアップできるだろう。

1→2 やや難 [131]

東西にのびる大きな尾根から目的の尾根を選択し下りなければならない。補助コンピークや傾斜変換、尾根の曲がりなどを情報として取り入れてほしい。これらはより難しい尾根たどりでも基本となる情報である。今回ミスをしてしまった人はぜひもう一度このキーワードをもとに再プランしてみよう。

2→3 普通 [63]

プラン、アタックともに平易だが途中のハッチのかかった沢とその先の B 藪の斜面の処

理が大変だったかもしれない。

3→4 易 [34]

右手の小さな尾根に登ってしまえば問題ない。多くの選手が問題なく進めたようだ。

4→5 やや難 [117]

一見救護所を通らないのがベストルートのようにだが実際には沢を切るのが面倒なため救護所経由が速いと思われる。実際 MS、MO、WO 含めほとんどの選手が救護所を通過している。アタックがヤブい斜面を登った先の沢なので少し難しい。こういったレッグでは自分の現在地を見失わないよう注意したい。

5→6 普通 [76]

男子の 9→10 を参照のこと。

6→7 やや難 [129]

レッグ線が D 藪にかぶっているので上か下に避けなければならないが下は遠回りですぐにアップ損である。ポスト位置自体は道から近かったためさほど問題なかっただろう。

7→8 やや難 [127]

ポスト位置自体は MS ほど難しくないが尾根切りに慣れていないと苦勞しそうなレッグである。まずは尾根東側の 5 番道に出ることを目標に、登り過ぎないことを意識しながら進めばよいだろう。

8→9 やや難 [355]

MS と同じポスト位置だが想像以上にやらかしてしまった人が多かったようだ。上位の京女勢が競り合って好タイムを出した一方奈良女勢が固まって順位を落としたようだ。先述の通りプランナーも下って行ってしまったため偉そうなことは言えないが、目標物が出てこなかった時になぜそこにはいないのか、少し時間をかけても地図とにらめっこしてみると良いだろう。

9→10 易 [36]

コンタ道を辿るのみである。

10→11 普通 [93]

MS 同様植生界を下っていくのが速いが上位層も含め差がついたようだ。不整地にさほど慣れていない人は無理せずまずは耕作地脇の 5 番道に出る、というところからはじめるのが良いだろう。

総括

野島(京女)が唯一ウイニングを切り優勝、そのあと金原、松井、大井と上位 4 人までノーシードの京女 2 回生が占めた。まだ数分単位のミスがいくつか見られるもののみなウイニング程度のタイムであり揃って競技レベルの向上が見られ、今後も期待が持てそうだ。また WS においては競り合いになった集団もツボってしまった集団もいかに自分のプランを行い集団から脱出するかということがタイムに影響を与えているようであった。人を見つけても安心して自分のオリエンに挑戦してほしい。